

■■メールマガジン「静岡県防災」第36号■■

～ 水害・土砂災害からの避難行動を考える ～

7月7日からの大雨は、福岡県、佐賀県、大分県、富山県、秋田県等で大きな被害をもたらしました。

テレビ等での被災者の「長い間この場所で暮らしてきたがこんな大きな被害は初めて。」というコメントからは、これまで災害が無かった地域でも被害が発生していることを伺わせます。

気象庁によると、全国のアメダスで観測された強い雨の頻度は、1980年頃と比べ、概ね2倍に増加しているとのことです。

また、自動車での移動中に流された等の報道からは、(諸事情あるにせよ)大雨の際には不要・不急の移動は、原則としてすべきではないということを再認識させますし、山が崩れ大量の土砂が家屋を飲み込む映像は、土砂災害のリスクがある地域における、立退き避難の重要性を示唆します。

雨雲の動きや、浸水、土砂災害等の危険度については、TVの「d」ボタンや気象庁のホームページの「キキクル」等で確認することができます。また、日頃からハザードマップで地域の危険度を確認していくことも大切です。

大雨の予報が出たら、早めに情報を収集し、各自がより安全な行動を心掛けるとともに、周囲の人たちとも共有し注意喚起していきましょう。

参考:気象庁キキクル

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#lat:34.034453/lon:135.000000/zoom:5/colordepth:normal/elements:land>